

枢密院議長子爵

清浦奎吾殿

枢密顧問官

倉

富

勇三郎

一一 潜水艦及毒瓦斯ニ関スル五国条約批准ノ件審査報告

潜水艦及毒瓦斯ニ関スル五国条約御批准ノ件審査報告

今回本院ニ御諮詢アラセラレ本官等審査委員ニ付託セラレタル条約御批准ノ諸件ノ中潜水艦及毒瓦斯ニ関スル五国条約御批准ノ件ニ付テモ亦本官等稍ク審査ヲ遂ケテ爰ニ其ノ結果ヲ報告スルノ時期ニ達シタリ

最近ノ世界戦争ニ於テ独逸國ハ屢々其ノ潜水艦ヲ以テ敵國又ハ中立國ノ商船ニ對シ無警告攻撃等ノ殘虐ナル行動ヲ肆ニシタルニ由リ全世界ノ非難ヲ受クルコト甚カリシカ今次華盛頓ニ開催セラレタル列國會議ニ於テ海軍軍備制限ノ問題ニ關連シ英國ヨリ潜水艦ヲ全廃スヘキコトヲ提案シタルニ仏國ハ之ニ對シテ強硬ナル反對ヲ為シ終ニ協議調ハスシテ潜水艦保有ノ制限ニ関シテハ何等ノ取極ヲ為スコト能ハス纔ニ其ノ使用ノ制限ニ付テノミ協定ノ成立ヲ見ルコトヲ得タリ又毒瓦斯ノ使用ヲ禁止スルコトハ既ニ第一回平和會議ニ於テ議定セラレタル宣言書ニ明示セラレタル所ナルモ最近ノ世界戦争ニ於テハ毒瓦斯ハ盛ニ使用セラレ頻ニ慘害ヲ生シ為ニ一般輿論ノ反對ヲ受クルコト喧シカリシカ這回ノ華盛頓會議ニ於テ復タ之カ使用ヲ禁止スヘシトノ議起リ終ニ協議調ヒテ約定成立スルニ至リ茲ニ潜水艦使用ノ制限ト毒瓦斯使用ノ禁止トノ二件ヲ主眼トシテ本条約ヲ編整シ本年二月六日ヲ以テ帝國、英本國及五英領殖民地、米國、仏國並伊國ノ全權委員ノ間ニ之カ署名調印ヲ了シタリ

本条約ノ規定ハ概略左ニ摘示スル所ノ如シ

(一) 本条約ノ署名國ハ國際法ノ確立シタル一部トシテ(イ)戰時商船ヲ拿捕セムトスルニ當リテハ先ツ其ノ性質ヲ決定スル為臨檢及搜索ニ服スヘキコトヲ之ニ命スルコトヲ要シ商船カ警告ヲ受ケタル後臨檢及搜索ニ服スルコトヲ拒ミ又ハ拿捕セラレタル後指示ノ如ク進航スルコトヲ拒ミタル場合ニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス又先ツ商船ノ乗組員及乗客ヲ安全ナル地位ニ移シタル後ニ非サレハ之ヲ破壊スルヲ得サルコト(ロ)交戰國ノ潜水艦ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ以上ノ一般の規則ノ適用ヲ免ルルコトナク潜水艦カ右規則ノ条件ニ依リテハ商船ヲ捕獲スルコト能ハサルトキハ該艦ハ右商船ノ拿捕及攻撃ヲ止メ之ヲシテ障礙ナク進航セシムルヲ要スルコトヲ承認スル旨ヲ茲ニ声明シ(第一条)且全世界ヲシテ明瞭

ニ此ノ規則ヲ了解セシメムカ為署名国ハ他ノ一切ノ文明諸国ニ対シ該確立法規ニ同意ヲ表セムコトヲ勧誘スル旨ヲ昭明
ス(第二条)

(二)署名国ハ商船ニ対スル拿捕、攻撃及破壊ニ関シ其ノ声明シタル前記ノ規則ノ施行セラレムコトヲ希望スルニ依リ一國ノ
勤務ニ服スル者カ右ノ規則ニ違反スル所為ヲ為シタルトキハ其ノ上官ノ命令ニ係ルト否トヲ問ハス戰爭法規ヲ侵犯シタ
ルモノト認メ海賊行為ヲ為シタル者ニ準シテ之ヲ審理処罰スヘク該違反者カ何レカノ國ノ法域内ニ於テ発見セラレタル
トキハ之ヲ当該國官憲ノ審理ニ付スヘキモノナルコトヲ更ニ声明ス(第三条)

(三)署名国ハ最近ノ世界戰爭中ノ事蹟ニ照シ前記ノ規則ヲ侵犯スルニ非サレハ潜水艦ヲ通商破壊者トシテ使用スルコト實際
上不可能ナルヲ承認シ從テ潜水艦ヲ此ノ目的ニ使用スヘカラサルコトヲ國際法ノ一部トシテ普ク採用セシムルノ目的ヲ
以テ今後署名国相互間ニ於テ此ノ禁止ニ循由スヘキコトヲ約諾シ且他ノ一切ノ諸国ニ対シテ此ノ取極ニ加入セムコトヲ
勧誘スル旨ヲ昭明ス(第四条)

当局ノ説明ニ依レハ潜水艦ヲ通商破壊者トシテ使用スヘカラストハ其ノ意義明確ナラサルモ該艦ヲ以テスル商船ノ拿捕
攻撃又ハ破壊及該艦ヲ以テスル封鎖ヲ許ササルノ趣旨ナリ又此ノ潜水艦ノ使用禁止ノ結果該艦ヲ以テ商船ヲ拿捕、攻撃
又ハ破壊スルトキ一般ノ國際法規ヲ遵守スヘキ旨ノ前記第一条中ノ規定ハ自ラ適用ナキニ至ルモノナリト言フ

(四)署名国ハ窒息性、毒性又ハ他ノ瓦斯及一切ノ類似ノ液体、材料又ハ考案ヲ戰爭ニ使用スヘカラサルコトカ國際法ノ一部
トシテ普ク採用セラレムカ為其ノ相互間ニ於テ此ノ禁止ニ循由スヘキコトヲ約諾シ且他ノ一切ノ諸国ニ対シテ此ノ取極
ニ加入セムコトヲ勧誘スル旨ヲ昭明ス(第五条)本項ノ禁止ハ対独平和条約第七十一条ニ定メタル所ト同一ニシテ第
一回平和會議宣言書ニ掲ケタルモノヨリモ一層広汎ナリ

(五)本条約ハ批准ヲ要シ批准書ハ華盛頓ニ於テ之ヲ寄託スヘク批准書全部ノ寄託アリタル時ヨリ本条約ヲ実施スヘキモノト
ス(第六条)

(六)米國政府ハ本条約ノ非署名国ニ対シテ之ニ加入セムコトヲ招請スヘク該國ハ米國政府ニ加入書ヲ送付シテ之ニ加入スル
コトヲ得ルモノトス(第七条)

本条約成立ノ由来等ニ付テハ別冊外務省ノ作成ニ係ル本条約解説概要ヲ参照セラレムコトヲ請フ

按スルニ本条約ハ戰時國際法規ニ於ケル人道的規則ノ確立普及ヲ企図スルモノニシテ其ノ規定ノ履行セラルルニ因リ戰爭
ノ禍害ヲ減殺スルコトヲ得ヘク其ノ趣旨及条項ニ於テ特ニ支障ノ点ナキカ故ニ帝國ニ在リテモ列國ト与ニ之ヲ批准セラル
ルコト当然ノ措置ナリトス仍テ審査委員會ニ於テハ本条約御批准ノ件ハ之ヲ可決セラレ然ルヘキ旨全会一致ヲ以テ議決シ
タリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

大正十一年六月二十三日

審査委員長

枢密顧問官子爵 伊 東 巳代治

審査委員

枢密顧問官子爵 金 子 堅太郎

枢密顧問官男爵 穂 積 陳 重

枢密顧問官 安 広 伴一郎

枢密顧問官 一 木 喜徳郎

枢密顧問官 富 井 政 章

枢密顧問官 平 山 成 信

枢密顧問官 有 松 英 義

枢密院議長子爵 清浦奎吾殿

枢密顧問官 倉富勇三郎

三、千九百二十年「ロンドン」海軍條約枢密院審査議事要録